



カンムリウミスズメ

門川町教育研究所

ふれあい

平成21年1月NO8
発行 門川町教育研究所
所長 斉藤 義輝
TEL 63-1566
五十鈴小学校内(教育相談室)

教育研究所の研究報告 勉強の「構え」をつくりましょう!



教育研究所は、4月からこれまで、門川町の子ども達の学力向上を願って、確かな学力を育てるための研究をおこなってきました。その中で、勉強ができるようになるためには、勉強の「構え」をつくるのが大切だということが分かりました。今回は、その研究の紹介をします。

「構え」って何だろう？

何をするにも心構えが大切だ、と言われるように日本では、昔から「構え」を大切にしてきました。

勉強をするにしても、仕事をするにしても、よく「心構えが大切だ!」と言われる。また、相撲などは、強くなるためには、「心・技・体」が大切だとも言われています。勉強でも、そのような「構え」をつくることで、勉強がぐんぐん分かるようになる、勉強が楽しくなるのではないかと考えました。いやいや勉強するよりも、何かの目標をもって、もっと分かるようになりたい、できるようになりたいという気持ちで勉強する方が、より分かるようになることは確かです。そこで、私たちは、「心の構え」「体の構え」「学びの構え」をしっかり育てることで学力を高めることができると考えました。

「構え」をつくるために

勉強するためには、学習の基本である「聞く・話す・読む・書く」ことについて、その「構え」ができていないといけません。

「構え」は、「心・体・学び」の3つのことに関係しています。

たとえば、聞くことでは、聞こうとする心の構え、話す人と向き合う体の構え、しっかり聞き取る学びの構えができていなければなりません。

毎日の生活や学習の中で、自分は、このような構えができていのかどうか、考えてみてはどうでしょうか。

心の構えをつくろう!

何よりも大切なことは、相手の話をしっかり聞こう、分かるように話そう、しっかり読み取ろう、分かるように書こうという、前向きな心の構えです。心の構えがあることで、学習に向かう力は確かなものになります。

体の構えをつくろう!

体の構えは、心の構えとつながっています。話す相手としっかり向かい合う、よい姿勢で聞く、読む、書くといった体の構えをつくることで、理解が深まり、心も自然と学習に向かいます。

学びの構えをつくろう!

学びの構えは、聞き方や話し方、読み方、書き方などに必要な基礎的な技能です。また、学習用具など、学びに欠かせないものを準備するといった構えもあります。

このような学びの構えができていると、聞く、話す、読む、書く活動がより充実し、生き生きとした学習に取り組むことができます。

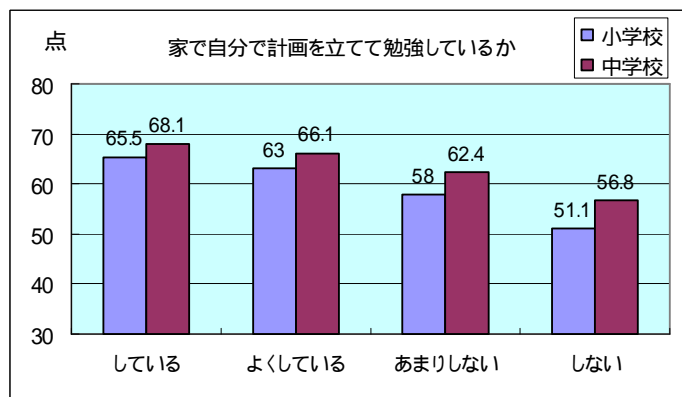
門川の子どもの学力を育てるために！
 全国学力調査の全国平均をもとに、家庭でどんな勉強をすれば
 確かな学力が身に付くかを調べてみました。



全国学力・学習状況調査から

計画を立てて勉強する，テストの間違いをやり直すことが大切です！

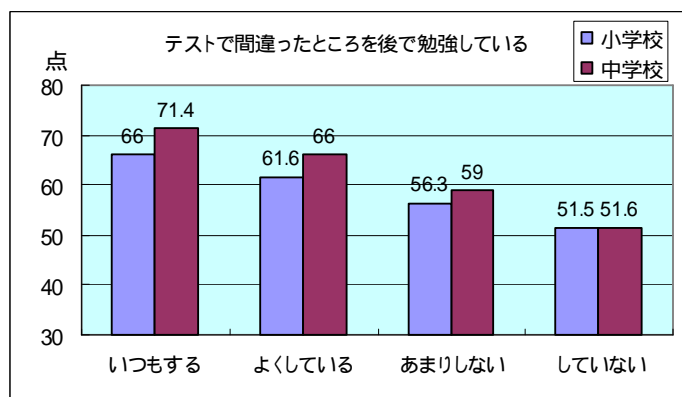
家で、自分で計画を立てて勉強していますか？



家で、自分で計画を立てて勉強する子どもと、そうでない子どもでは、小学校で 15 点、中学校で 11 点の学力差があります。計画的に家庭学習をする子どもの学力が高いと言えます。

宿題やその日学校で習ったこと、できなかったことを中心に、自分で計画を立てて勉強することで、「進んで学ぶ力」が育ちます。そのためにも、一日の生活プランを立てて、計画的に家で勉強をしましょう。

テストでまちがったところを後で勉強していますか？



テストをもらったら、そのまま机の中にしまい込んでいませんか？

テストのまちがいをいつもやりなおす子どもは、そうでない子どもより、小学生で 15 点、中学生で 20 点も学力が高くなっています。テストをもらったら、まずまちがいを正しくなおし、それから何度も何度も練習して、問題をやりなれるようにしましょう。まちがったときこそ、できるようになるためのチャンスです。

教育研究所からのメッセージ

勉強には、学校で習うことと、家で自分自信で勉強することと、二通りあります。学校で習ったことを家でもう一度やってこそ、本当の力が身に付きます。自分で分かるまでやってみて、初めて確かな自信がつきます。そのためにも、計画的に家で学習することが大切です。

「まちがったテストは見たくない」気持ちはよく分かりますが、まちがった時こそ、できるようになるチャンスです。次は、もうまちがえないぞという気持ちでできるようになるまで練習して、まちがいをひとつずつなくしていきましょう。

~~~~返信欄（教育研究所便り「ふれあい」へのご意見や感想をお聞かせください。）~~~~